

## 第21回 AIAA 通信衛星システム国際会議(AIAA ICSSC 2003)を無事終了して

プログラム委員長 水野 秀樹

このたびは関係の皆様のご支援、ご協力を得て、標記会議を無事終了することが出来ましたこと、改めて御礼申し上げます。

AIAA ICSSC は言うまでもなく衛星通信関連で最も重要な会議の一つであり、4年前の日本開催の成功を受け、今回もアジアを代表する形で、日本での開催となりました。私が関係しましたのは、当初、NTT グループの窓口的な役目と言うことで、2000年(平成12年)の暮れ頃、最初のお話を頂いたように記憶しています。

最初の仕事は、前回の国内開催と異なり、経済的に不況な状況で如何に関連各社の応援を得るか、また前回同様、好評を得るためにどのような仕掛け・仕組みを考えたらよいか、などだったと記憶しています。そして、衛星関連各社から、各実行委員会の長を選出しよう、とのことで私がプログラム委員長をおおせつかることとなりました。

プログラム委員会の主な仕事は論文数の確保、セッション構成のアレンジ、当日の会議進行の管理、などですがそれぞれ順を追って苦労話をご紹介しますと思います。

### < 論文数の確保 >

これにはやはり、会議として魅力的なキャッチフレーズが必要であり、プログラム委員会のみならず、組織委員会の委員長副委員長はもとより、関係各委員会の委員長からもご提案頂きました。タイトルは”The Impact of Communications Satellite on the Information Infrastructure” に決まりました。余談ですが、”Communications Satellite”ではなく、”Satellite Communications”、つまり「通信衛星」ではなく「衛星通信」としたつもりだったのですが、どこかで逆のまま走ってしまいました。

しかし、このタイトルに合致する形でオープニングセレモニー、パネル討論 A/B/C が開催でき、この初日のイベント案内を見て、論文投稿して下さった方も多かったのではないかと確信いたしております。

セッションオーガナイザーのご努力、ならびに国内衛星関係機関からの投稿協力を受け、論文投稿数は最終的に240件に達しました。イラク戦争、IT 不況などの逆風を考えると予想をはるかに上回る件数でした。

### < セッションのアレンジ >

セッションの時間割りのアレンジは経験された方は皆さんご存知の事と思いますが、論文の投稿数を予測しながらの作業で、最終期限が来るまで、何度も思考錯誤するものの、結論を出すことが出来ない作業です。プログラム委員会正副委員長が何度も集まり、セッション構

成を検討したのですが、最終的には2月の上旬までかかったと記憶しております。

また、今回はチェアマン、コーチアマンの方の連絡不達、会議欠席の通知、などがあり直前まで確定しないセッションもありました。

昼休み時間を短くしたり、最終公演を16:30以降としたりして、ようやく全論文を割り振ることが出来ました。発表された方々には若干不自由をお掛けしたかと思いますが、この場をお借りしお詫び申し上げます。

#### < 会議の運営 >

一番頭を悩ましたのはイラク戦争でした。何時始まるのか、何時終了し海外への渡航が安全になるのか。しかし、実際は SARS の方がより大きな問題だったようです。現時点で日本での発症例は認められていませんが、外国の方は SARS を非常に心配されていました。

また、本件はプログラム委員会の所掌外だったかもしれないのですが、オープニングセレモニーにご招待する方をどうしたらよいか、どなたに案内状をお送りしたら良いか、と言う事も議論しました。最終的には予想を上回る方にご参加頂けたのですが、ここに至るまで、事務局サイドは大変な努力をしたことをご紹介します。

会議終了に至るまでの苦労話をご紹介します。成功裏に会議を終了できたことを重ねて関係の皆様にお礼申し上げますとともに、日本国内の衛星関係者、関係企業の結束力の高さを改めて再確認することが出来たことは、プログラム委員のメンバーとしてのみでなく、国内の衛星通信関係者の一人としても、何物にも代え難いものでした。

本会議の成功が我が国の衛星通信、宇宙開発の更なる発展の一助となることを祈念致しまして、本報告を終了させていただきます。